岩手高等学校硬式野球部

第３７回
全国高等学校野球選手権大会出場

野球部の変遷

１９４６（昭和２１年）

岩手中等学校硬式野球部創部

第２８回全国中等学校野球大会岩手県大会初出場

１９５１（昭和２６年）

第３３回全国高等学校野球野球選手権大会　岩手大会準優勝

〃　奥羽大会出場

１９５２（昭和２７年）

第３４回全国高等学校野球野球選手権大会　岩手大会準優勝

〃　奥羽大会出場

１９５５（昭和３０年）

第３７回全国高等学校野球野球選手権大会　岩手大会優勝

〃　奥羽大会優勝

〃　全国大会出場

● 全国大会成績

一回戦　岩手高校（奥羽地区代表）　３Ａ　対　０　法政二高（神奈川地区代表）

二回戦　岩手高校（奥羽地区代表）　１　対　３Ａ　坂出商業（北四国地区代表）

●１９５５　昭和３０年　部長・戸嶋正夫　副部長・川村　昌司　監督・川村　昌司

公　式　戦　の　記　録

◎第２回春季東北六県高等学校野球大会

［盛岡地区予選］

［１回戦］　岩手高校　３－８Ａ　盛岡一高

◎第３７回全国高等学校野球選手権大会

［岩手県大会］

［２回戦］　岩手高校　７－３　一関二高

［３回戦］　岩手高校　１２－２　黒沢尻北

［４回戦・奥羽大会代表決定戦］

岩手高校　９Ａ－３　花巻北高

［準決勝戦］岩手高校１４Ａ－９　一戸高校

［決勝戦］　岩手高校　２－０　宮古高校

［奥羽大会］

［１回戦］　岩手高校　４Ａ－０　秋田高校

［準決戦］　岩手高校　４Ａ－１　一戸高校

［決勝・全国大会代表決定戦］

岩手高校　５Ａ－３　八戸高校

［全国選手権大会・甲子園］

神奈川代表

［１回戦］　岩手高校　３Ａ－０　法政二高

北四国代表

［２回戦］　岩手高校　１－３Ａ　坂出商業

◎第８回秋季東北六県高等学校野球大会

［盛岡地区予選］

［１回戦］　岩手高校　０－８　盛岡工業

●3年生	●2年生	●1年生
[主将]田中　義男	村川吉兵衛	福田　要
小泉　勉	沢野(現・澤田)重安	杉村　衛
板垣(現・滝田)隆夫	佐々木英雄	千田　昭則
田口　節雄	村井　慶一	松館　健吾
平野　喜三	名久井光文	中野　昭雄
[M]小田島基敦	昆　義光	吉田　昭隆
	工藤　強一	川原　功六
		本館　宏安
		佐藤　(恭)
		堀切(現・平井)緑郎

●川村昌司氏は、４月に教諭になられ野球部副部長・監督に就任された。数年前から大学の休みを利用して夏の練習等に来てコーチされていました。

●工藤強一・佐藤（恭）・堀切(現・平井)緑郎の三氏は途中退部、桜球会々員に成っていません。

★第２回春季東北六県高等学校野球大会

●盛岡地区予選

１回戦

岩手高校	000	000	003	3
盛岡一高	210	010	04X	8A

(岩)松館・板垣－田中　(－)中野－横

村川　まだ未完成

昨年の夏・一関一高に敗れてから内外野の守りは徹底した練習で形は出来てきた。秋の大会は、何とか東北大会に出場する事が出来た。しかし投手力の差で敗れた。ピッチャーの育成が最大の課題であった。秋から投手は村川に絞り徹底した練習が行われた。春の大会は、松館・板垣を登板させ村川は温存した。川村監督は、村川はまだ未完成だと判断し、夏の大会に標準を合わせていたと思います。

★第３７回全国高等学校野球選手権大会

［チーム紹介］

円子・小武方の好投手を生み出し、戦後の県内高校球界にダークホースとして押しも押されもしない地位を築いた。岩手は伝統持たない弱みがあるが、今年のチームは、昨年秋と春季大会の苦杯を生かして全体が急速な進歩を示している。弱体とされた投手陣はコマ不足ながらエース村川の豪速球と新人松館の伸びの有るシュートに一応の態勢を整えた。村川は長身から繰り出す豪快なインドロとインコースの速球は頼もしい。この両投手をリードする捕手田中は攻守の大黒柱であり持ち前のファイトで全軍を引き締めている。昨秋からの猛練習が功を奏して最近攻守に急激な上昇を見せている。内外野の守備は、スピーデーな動作に守備範囲の広い・板垣三塁手、小泉遊撃手の華麗なプレーは守備範囲が特に広い、堅実な平野二塁手と名久井一塁手、二遊間コンビの併殺プレーは確実である。攻守と強肩に確実なプレーを見せる田口中堅手、田中から田口までのセンターラインは素晴らしい。佐々木左翼手、沢野右翼手を配する外野陣は、懸念された守備範囲は猛練習で守備範囲も広くなり安定してきた。比較的低調だといわれた打撃力は、田口・田中・小泉と続くクリーンアップは飛躍的に成長し、かなりの得点力を持つ様に成った。トップ・板垣は俊足好打で理想的なリードオフマンに成長した。名久井は器用な打者でどの様な状況にも適応する力と技を持っている。田口・田中・小泉・村川と続く打線は得点をたたき出すチームの原動力。今大会はダークホースとして大いにその真価を発揮するだろう。

●岩手大会　　7/20~26

２回戦　　盛岡市営球場　（主審）長沢正（塁審）青木、高橋、阿部

岩手高校 510 001 000　7　(2B)田中
一関二高 100 000 020　3
(岩)村川−田中　(一)小島、佐々木正−岩淵

一関二高　善戦す

［長沢正 主審評］両軍共きびきびした良い試合を見せた。
岩手一回表・一関二先発・小島投手の乱れに乗じ　ボールを良く引き付けジャストミートして大量得点を先取した。二回から両軍の攻守好打で熱の入った試合が行われた。
一関二の敗因は投手起用の失敗にあった。一関二は、強豪岩手に食い下がり善戦した事は賞賛に値する。

３回戦　　盛岡市営球場　（主審）坪井（塁審）斎藤、高染、宍戸

岩手高校 353 00　12（5回コールドゲーム）(2B)田中、田口、板垣
黒沢尻北 000 11　2
(岩)村川−田中　(黒)藤田、藤沢−高橋

岩手　黒北に大勝

［坪井主審評］岩手は、立ち上がり不調の黒北・藤田を攻め、一回、二回、三回と大量得点した。
岩手の上位打線の堅実な打撃が大きな勝因になった。
岩手・村川は、伸びの有るストレートと得意のシュートで好投した。黒北の打線は前半振わず、確実なミートバッテングにもっていった時にはすでに遅かった。

●準々決勝戦［代表決定戦］　盛岡市営球場　（主審）坪井（塁審）斎藤、高橋清、高野

花巻北高 010 100 000　3　(2B)大畠
岩手高校 100 050 12X　9A　(2B)小泉、沢野、名久井
(花)大畠、中村、大畠−伊藤　(岩)村川−田中

［花巻北高］	打	安	失	［岩手高校］	打	安	失
⑧ 佐藤三	5	1	0	⑤ 板垣	4	1	0
④ 浅利	4	0	0	③ 名久井	4	1	0
③13中村	1	0	0	⑧ 田口	5	2	0
② 伊藤	3	0	0	② 田中	3	2	1
⑥ 鎌田	4	0	1	⑥ 小泉	5	2	1
⑦ 宮沢	2	0	1	① 村川	5	3	1
①31大畠	3	2	1	⑨ 沢野	4	2	0
⑨ 阿部	4	0	0	⑦ 佐々木	4	0	0
⑤ 佐藤修	3	0	0	④ 平野	3	0	0
PH小原	1	0	0	計	37	13	3
計	30	3	3				

	犠	四	盗	振	併	残
(花)	5	6	1	1	0	6
(岩)	1	6	1	0	1	11

岩手高　花巻北高に打ち勝つ

［経過］岩手一回裏・板垣四球の後・田中の左前安打で先取点を上げた。花北二回表・四球と二塁打で同点、四回表内野失・１犠打で１点リードした。岩手は、花北・大畠を良く攻め、ほとんど毎回走者を出して攻めていた。五回裏花北のリリーフ中村の立ち上がりの不調に乗じて４安打２四球で大量５点を上げ試合を決定付けた。闘志の衰えた花北打線は、その後村川を打ちあぐみチャンスをつかめなかた。逆に岩手は七回に１点、八回にも再度登板した大畠を攻め二塁打を含む３安打を集中して２点を加え、９Ａ−３で勝利をおさめ奥羽大会出場を決めた。
［坪井主審評］投手は、花北の方がうまみが有ったが、岩手の方が安定していた。両軍実力には大差が無かった。
花北は、盛岡を破った時の元気が無く、特に後半は闘志に欠けていた。岩手は、打つべき時に良く打ち結果的に打ち勝った試合であった。花巻の継投策は時期的に悪くなかったが練習していなかった中村をリリーフに送ったのはうなずけない。花北で目に付いたのは大畠の打撃だった。

●準決勝戦 盛岡市営球場 （主審）長沢正（塁審）斎藤、高橋、宍戸

一戸高校 103 300 020 9 （2B）根反、浅利
岩手高校 043 005 02X 14A （2B）田中、小泉、村川
（一）山岸、山田－夏井 （岩）松館、村川－田中

［一戸高校］打得安犠振四盗失

⑥	里	4	2	2	0	0	2	0	0
⑨	北 館	1	1	0	1	0	0	0	0
1	山 田	3	1	1	1	0	0	0	0
⑤	根 反	6	1	1	0	0	0	1	1
③	浅 利	5	1	3	0	1	0	0	1
①9	山 岸	3	0	0	0	0	2	1	0
⑦	佐々木	3	0	0	0	0	4	0	0
④	三 浦	4	1	2	0	0	1	0	0
②	夏 井	4	1	1	0	1	1	0	2
⑧	金田一	4	1	1	0	0	1	0	0
	計	37	9	11	2	2	11	2	4

（残塁）12 （併殺）1

［岩手高校］打得安犠振四盗失

⑤	板 垣	6	0	1	0	1	0	0	1
③	名久井	5	1	0	0	0	1	0	1
⑧	田 口	3	2	1	0	1	2	0	0
②	田 中	4	2	2	1	0	0	0	0
⑥	小 泉	5	2	1	0	0	0	0	2
⑨	沢 野	4	4	3	0	0	1	0	0
⑦	佐々木	1	1	0	1	0	3	0	0
①	松 館	1	1	1	0	0	1	0	0
1	村 川	3	1	1	0	0	0	0	0
④	平 野	4	0	2	0	0	1	0	1
	計	36	14	12	2	2	9	0	5

（残塁）6 （併殺）2

岩手乱打戦を制す

［経過］一戸一回表、１四球・１安打で１点先取した。岩手二回裏、２四球と田中の二塁打を含む３安打で４点を上げ試合を逆転した。三回にも４四球と小泉の二塁打などで３点を上げた。一戸三回、根反・浅利の連続二塁打などで３点、四回には３安打・１四球・エラーなどで３点を加え同点に持ち込み試合を振り出しに戻した。岩手六回裏、一戸・山田の乱れと内野陣の混乱に乗じ３本の安打などで大量５点を上げ大勢を決した。これに対して一戸八回、里の遊撃強襲安打を足場に３本の安打・２四球で２点を返したが及ばなかった。

［長沢正 主審評］試合は両軍投手の疲労と球威のない投球で乱打戦と成った。一戸・山岸投手は肘を痛め山田投手と交代したが、コントロールが無く四球の連続、ストライクを取りに行った好球を好打され、二回、三回、六回と大量得点を与えたのが大きな敗因。一戸も松館・村川投手から安打を奪って前半シーソゲームと成ったが、後半村川投手が立ち直りそのまま押し切られた試合であった。両軍とも投手力の弱体はひどく奥羽大会での奮起を望みたい。

●決勝戦 盛岡市営球場 （主審）坪井（塁審）長沢常、斎藤、菊池栄

岩手高校 000 000 011 2 （2B）板垣
宮古高校 000 000 000 0 （2B）高浜、梅沢、谷口
（岩）村川－田中 （宮）佐々木、貫洞－渡辺

［岩手高校］打得安犠振四盗失

⑤	板 垣	4	0	2	1	1	0	0	1
③	名久井	4	0	1	1	0	0	0	0
⑧	田 口	3	0	0	0	0	1	0	0
②	田 中	3	0	0	1	0	0	0	0
⑥	小 泉	4	0	0	0	1	0	0	0
⑨	沢 野	3	0	0	0	0	1	0	0
⑦	佐々木	4	1	1	0	0	0	1	0
①	村 川	3	0	0	0	0	1	1	0
④	平 野	4	1	3	0	0	0	0	0
	計	32	2	7	3	2	3	2	1

（残）9

［宮古高校］打得安犠振四盗失

④	高 浜	3	0	1	0	1	1	0	0
⑧	長 沢	4	0	0	0	1	0	0	0
①6	佐々木	4	0	2	0	0	0	0	0
③	金 沢	4	0	0	0	2	0	0	0
⑤	梅 沢	4	0	1	0	1	0	0	0
②	渡 辺	4	0	0	0	0	0	0	0
⑥	野 中	3	0	0	0	2	0	0	1
1	貫 洞	1	0	0	0	0	0	0	0
⑦	谷 口	4	0	1	0	0	0	0	0
⑨	島 崎	2	0	0	0	0	1	0	0
	計	33	0	5	0	7	2	0	1

（残）8 （捕逸）渡辺

岩手高 下位打線が活躍

［経過］全選手疲労の色濃く、前半両軍投手の精彩を欠く投球にもかかわらず淡々たる貧打線が続いた。先攻めの岩手高は七回まで宮古高・佐々木投手に押さえられ、さしたるチャンスも無かった。一方宮古高は七回まで３本の二塁打と１本の安打を散発したのみで得点機を持たなかった。しかし岩手高は八回、先頭打者九番・平野が右前に安打、板垣のバントで二進、名久井・二塁右を抜く安打で平野三進、田口四球で一死 満塁のチャンスを迎えた。宮古高はこのピンチにエース貫洞投手を登板させ切り抜けようとした。四番・田中、カウント１－３から一塁線にスクイズ敢行し先取点を上げた。九回、一死後七番・佐々木の中前安打、盗塁・捕手のパスボールで三進、九番・平野の内野安打で１点を追加し試合を決定ずけた。岩手高・村川投手は七回以後復調し宮古高にチャンスを与える事は無かった。

［坪井主審評］両ナインの疲労はおおうべくもなく、貧打線に終わったが両投手の好投はたたえられ五分と五分の試合を演じた。しかし、岩手高は後半非常にうまい試合運びを見せ土壇場で貴重な２点を上げわずかの差で優勝をものにした。外野の守備がまだまだ弱体であり奥羽大会までに相当の精進を要する。一方宮古高はエース貫洞投手が疲労のため佐々木投手を先発させた。インシュートが良く岩手の打線を押さえた、途中交代したとはいえ称賛に値する。